

原教師との再会

よもや原淑美さんとこんな形で再会するとは。

初めての出会いがいつだったか・・・、そうあれは20年近く前、東京・中野にある学生キリスト教友愛会(SCF)だった。そこまで深く話し合う仲にはならなかった(?)けれど、気が付いたら教団の教師として歩まれていた。

その出会いから私も大学などで東京を離れ、会うことはなかった。かなり経ってから、神学校で学ぶため東京に戻った。すると、当時原教師が牧会されていた花小金井教会へ、年に一度ある神学校日礼拝に招いてもらった。本当に久しぶりの再会だった。そして、とても嬉しかった。いわゆる出身／関係神学校に縛られることなく、原教師が出会いを大切にしつつ、そして私のことを覚えていて下さっていたことを知ったから。

それからまたしばらく会うことはなかった。けれども、時々会う本多香織教師(瀬戸内教会)から、原教師が奄美へ移住されたこと、そこから喜界教会へ赴任されたことを伺って、とても嬉しかった。ああ大切な友が頑張っている、と。

2年前、同じ九州教区にある荒尾教会に私も赴任することになった。九州に行ったら会いたい人リストを頭の中で勝手に作っていたが、原教師はそのトップ5に入っていた。けれども、教区総会などで顔を合わせても、お互い時間がなく中々ゆっくり話す時はなかった。

喜界教会へ

そんな中で、9月15日・16日の訪問が実現した。当初は、3月の保養プログラムの下見だったので、日曜に礼拝奉仕が終わってからの移動のつもりだった。しかし、原教師から喜界教会で礼拝を一緒に守ろうとお声がけいただいた。正直、荒尾教会も礼拝出席が約10名の小さな群れで、他の教師を呼ぶことは決して簡単ではない。躊躇しつつ、でも神さまの導きの中で代わりの教師が与えられ、行くことが出来た。

朝4時40分発の福岡空港行きのバスに荒尾駅で乗り込み、喜界空港に到着したのは、9時45分。到着すると、原教師の溢れんばかりの笑顔があった。行くと、教会堂脇で大工さんたちが作業中。台風で屋根が飛ばされた車庫を直してもらっていた。台風の脅威が、荒尾よりもずっとずっと厳しかった。お連れ合いのKくんとは10数年ぶりの再会。その後は、喜界教会のルーツや教会墓地、信徒訪問まで同行させていただく。奄美地区の中でも、喜界教会は特に古い歴史があり、その一端に触れ、ただただ深い感銘を受けた。

礼拝は私を含めて5名。地域の行事などが重なり欠席された方も多かったそうだが、人数は関係なかった。出席者の一人ひとりが、真剣に、真摯に、朗らかに、御言葉に耳を傾けている姿が目には焼き付いている。御言葉を、祝福を何とかお伝えする役で行った自分が、逆に出会いを通して神さまの祝福をいただいた。この出会いを、もっともっと深めていきたい。

荒尾教会牧師 佐藤真史